

長久手軍記

尾

津田文庫

文庫 1

1800



大略長久手軍記

早稲田大学
図書館蔵書

目録

- 長久手合戦初發之事
- 池田勝入大之城口楯籠之
- 於清須河軍法評儀之
- 羽黒八幡村合戦之
- 秀吉尾州河下向之
- 池田勝入岡崎之城趣之

つだ文庫

010190614773

- 白山村合戦之事
- 家康公長久手出陣之事
- 長久手合戦池田森元討之事
- 秀吉長久手正清如馬之事
- 長久手合戦高名覺書之事
- 小牧山本陣間救小幡之城之事
- 長久手軍記目錄

1800

別書目録

- 秀吉富田城攻之事
- 竹ヶ島城攻之事
- 輝兵落城之事
- 秀吉信雄和睦之事
- 長久手軍記

度北畠中將信雄死ハ危列七島の城にありしに
 あり家臣の岡田長門守同相星崎の城主之津川

玄室窟勢到松崎の城主之淺井田宮丸尾州安賢
の城主之右の之去来より君命不随して到り秀吉
内通一味ノ心腹之由信確の聞しる時于天正
十二年甲申三月二十日右ノ家信二人長寫と登城ス
ベキ旨被作也當日に祝儀會トシテ各三人登城セリ
于時當座清沙料理被下置テ後急テ去方勤
兵米飯田半兵衛森印下由ト申テ二人ノ士被作付
右ノ惡心共甲之討取ヘク旨依之ニ士八内月迄ニテ

能キ時食テ宿願速ニ右家老三人ヲ殺害セシム去
裡ニ秀吉公ハ右ノ次方より申召叔ハ信確ハ跡々
逆心ニ益効トテ既ニ國々ノ大軍ヲ催ニ召テ聞
有ニ依テ信確歸ハ七寫ノ城ヲ守ル人救亦之各庶
之ニテ九州四河ノ城家康公ノ許出馬トシテ
信確ハ家康公清沙對峙有ニ則家康公ハ信
確ハ清沙救ノ夕迄以人救八千人ニテ九州國境ヨリ
尾州清瀬清沙おる日限不分明度ニ亦尾州是

守舎才同名伊勢守門葉園田惣三郎探玄千
系人引率し星寄城に楯籠り依之夜康公
冬州元ノ内石川伯耆守世平酒井與六郎内
省弥次郎水野惣兵衛尉忠重に死す
鈴本アケ鈴本トテ西人は伯耆守カ組之右ノ
流中白被作舟屋寄ノ城攻落スヘトテ三月
六日ヨリ押寄セ近カノ町在妻家ヲ放火ル依テ
城内ヨリ出向我トイヘ臣寄年ハ多勢ヲ攻ケル

不可トヤ思ヒ城中へ引退ケルヲ倍ク二ノ九門口
ヲ攻入ルニ仍テ門ヲ突キ突出ケルニ惣兵衛年ノ
鈴本カノ命ト城中ノ湊賢方在陣ト言ヒト惣
合ス内外十日斗モ年痛ク戦ケルサレニ城中ハ
小勢ヲ或モ討シ或ハ落行既ニ傍立テハ惣列
落行其外ノ士率モ方々白退出シ終ニ城ヲ棄
トリ別當勢ヲ惣率如所ノ備ヲ湊濱ニ住進ス
然テ小牧ニ趣ケルトワ以時ノ高名ハ酒井カノ命

手は太田道直と云ふ志の討死たる教公事夕剛力
ノ者ニテ摠久シク戦ヒテ善事更たり手ヲ切シ
テカフ行年ニテ終ニ彼ノ教ヲ討取ケル善事
汝手ヲ負テカラテ後弓ヲ送引テ程マタ
高名セシ志ノ家康公聞召甚多ク感育ケリ

池田捨入如心之城ニ楯籠電也

尾州如心之城ニ公衆テ其以信確邪ヨリ城守ト
シテ家人中川勘右衛門ヲ籠籠至玉ヲ折節

勘右衛門勢弱城ノ城ニ代守トシテ被取ケル節
途中ニ池尻平兵衛ト云志ノ私ノ闘争シテ討
死セリ捨入ハ以テ急ヲ急ニ濃州大垣持
取テ立テ如心志ノ入町人モ亦近急ノ好志
在令内通仍之十三夜中ニ城ニ押寄セケリ
世取ノ留守三ノ勘右ノ叔父ノ清茂直ト云志
之捨入大勢ニテ死志利不長ニ攻入ケルニ仍テ
城中ハ小勢取放キカフ子テ活死至志終ニ討

ル々池田父子ハ城ヲ安ニト取聲ナル本林武苑
守ヲ拒キ入信確々ニ欲對ノ色ヲ見セテ是乃
言公ト乃下向ヲソ相侍ケリ

於尾州法須河軍法以評定之支

去程ニ象康公ハ先年信長公ノ教忍ヲ淺カ
ラ寸思召レ信確邪ニ七河内流マシメテ河内寄
ノ河城ヲ此也馬ニテ河内流ノ此也河内寄
リノ河内寄

尾州

河内

河内

史ハ尾州法須河内者河内ニシテ河内寄ノ城
ハ尾州寄ノ城也今ハ先年信長公ノ教忍ヲ淺カ
下向之由ナシハ清江ノ於テ河内軍法以評定有テ
河内寄ノ城也今ハ先年信長公ノ教忍ヲ淺カ
遊小牧ヲサシテ尾州寄ノ城ニ池田父子ハ此乃

城より今勅勢ヲ爰ニ方々ト手合ヒテ小牧山
近色在テ所シテ放ヤセシム時テ家康公
御途中ニテ此所御覽遊シリ急カセテトイ
ヘ尾脱ニ池田カ勢ハ必勢ヲ入ル所ハ皆ソコニ引
退ケルハ御味方人ト是夕残念トイエテ甲斐
ヲナキ去程ニ家康公ハ小牧山ニ登リ五ノ陣所
ヲ決定メ其外解蟹ノ清ムル取山村宇田津村
杯ヲ七要害ニ存御勢入至レ示小幡ノ右城

ヲモヒシワラニ冬州上下ノ為メ本多豊後守海島
元山ニ名代徳及常陸守等ヲ皆電メ至玉下
折而二月十六日家康公ハ山ノ指白ニ玉ノ地形
能キ場所ヲ御見分メテ甲斐ニ少者存テ所ニ
存御勢入可濃列金花山ノ右城ヨリ
手合ヒ後トシハ羽黒ノ八幡村ニお張ニ尾家
志在島尉ヲ一所ニテ三千ノ勢ヲ以テ右山同心
ニテ備ケルトテ折而浦井左馬尉志在島陳

ノ祥ヲ窺ヒ馳飯リテ言上シケルハ武藏守ハ
三千斗ノ勢ヲ羽黒ニ陳取申ル此者是ハ
兼及ハ信確公也時ヨリ度々ノ手柄ヲ顯シ
京都ニテ公鬼武苑ト里ヲ名ヲ呼ル由此度モ
先手トシテ後陳ヲ難ク能有ル間幸ノ儀之素
懸廻テ追ヒ散シ上方勢ヲ見テ覺セ可申ト
勇々テニキリニ言上ス大君モ酒井ガ申条
最モ可然トテ急キ御勢採工ノ御用意

被作付ケルト之

羽黒八幡林合戦之變

去裡ノ酒井左衛門忠次ヲ大將トシテ以テ三月
十八日早朝ニ長可カ陳所ニ下押奇セケル此
時ノ御勢ハ奥平義作守信昌松平紀伊守
家信松平王慶氏家忠本多豊後守康重
丹羽初介氏次柳原小平左衛門政大須賀其
左衛門尉康高此外天野周防守ノ案内トシテ

都合其勢三千余騎一ニ夕午ニ合テ三勇ニ勇テ
押掛ル武藏守長可ハ七年ヲカタ取足將凡出シ
鉄炮ヲ放テ度ヲ度ラセトク防我トイ工臣急州ノ
勢是ヲ度スセテコロク傾ケ真一文字ニ突テ
懸ル然ルニ翌年義作守松平紀行守ノ西勢方
南ヨリ東工押迫ニ切テ掛ル仍テ款ハ後口
包マレテ叶マシト雜兵臣後々崩シケルラ長
可サイヲ取テ進メヤ志臣ト下知可シハ或志討

或志義行テ孫軍破レケレハ流石ノ武藏守守
不叶シテ居城上ト退キケル奇手ハ猶モ察ル羽目
ナレハ心抱ヨシト退借メ々討捨ケル長可力守ノ
志深キ三勇士ハ五騎七騎度彼ニ返シ合防キ
我テ討死シテケリ一申モ野呂助屋ノ子長
卿三郎ハ遙ニ延行ケルカ父ノ討死ノ由ヲ聞テ
母ノ方ニ形見ヲ送リ手前ハ死ヲ送ニ款陳五
掛入手痛ク佛ヲ終ニ討死シテケリ味方款

ノ首五百余討死西君に奉入実詮在物神
右卜沙悦を以て我功の一回を以て之に
御威状或ハ
御褒衣着玉りケル

秀吉尾州御下向之度

去程之秀吉公ハ三月丙午振州大坂より濃州
大垣ノ城ニ入同月廿七日太山ノ城ニ入りて
磐都合
拾二万五千余ノ大軍ヲ引率シて目ノ未利
樂田羽黒ノ色ニ歩か玉く小牧山ノ神ヲ以て見合

方テ教テ所ニ此石ヲ持サセ玉り仍之二重坊ノ此石ハ
細川越中守目根ノ備中守同強弘為小松守山
ハ丹羽守所為久保山ハ蜂屋出羽守金成守市
八重塚ハ森武藏守岩倉山ハ稻葉伊豫守父子
此外諸兵村々所々ニ宿陣ス皆々小牧山ニ向テ陣
ヲ布此良野モ山モ明比等陣ヲ布リテ夜中ハ
烽火ハ天ヲ輝シ人音峯々之震ク同ノ余リ耳ニ
斗此神兩君御覽証ハニ毎々勅シキ大軍ハト

御意有之此レハ本多平介内厚四郎也
有之言セシハサ裡ノ人救任好石徳与中上君真
アノ大軍ヲハサモ等キトスイカニト御意有平
介行進テ出テ上二万餘カノ夏ニテ此レ迄定ノ軍
士八二万斗モ可有此レ迄中上ケルコトモ後ニ至
ルノ敵ヲ討シテトテ本多平介ノ出陣テ
キ少シ鉄腕少鉄見ハ工ト被作付所ノ平
介手以迄ハ合斗ニテ怒角ノ後茂不中上再ニ

御意有之所レ以後有酒井左衛尉被中上ハ
君ハ何ヲ被作此間ノ御内儀ハ水ニ成ルハ
ニ平八郎ヲ御此レ迄中上ノ御意有
中上中上目アシラカサ勇テ酒井ハ手ノ念ヲ呼
奇セ漬漬兵糧亦或ハ有貝杯ノ月之侍集リ
此様トヤ付ルヲ聞召左衛尉好念ハイカレト
御意有左衛尉申上リ条款ハ合戦ヲ待禱
トモ見五寸ハ只今ハ早未ノ下割ニ此レ迄ハ

ラ来り大人教ヲ見セ味方ノ氣ヲ棄フトノ謀
支ト推量仕ル定而宿陣可致トヤス案ノ如ク
款ハ宿陣ノ用之ノ君ニモトト仰意有リ月七
既ニ西岸ニ傾ク又此夜ノ子ノ別斗ニ至場ノ
出陣ハ由カ下知シテ銃炮少クホセケレハ
款陣似ノ外ノ取動セリ仍之秀乃吉公ヨリ
稻葉伊豫守ヲ使トシテ是ヲ静メシム此時
利不_レ_レ也亦破リ十八款ハ敗軍必定成ルラト

人々後悔ス去程ニ西君ニ小牧山ニ御旗ヲ立サセ
ラレ諸將モ皆ク旗ヲ上サセラレシトリ
池田猪入園崎ノ城ニ趣支

新_レ入_レハ子息統伊守ニ密語シテ同ク小牧山
軍勢退目テ増レリ今ハ遠州ノ勢不_レ残小牧山
有_レ之ト見ユ然ラズ此ノ長冬利園崎ニ至リ四
中_レ至_レ所々ヲ放火セバ小牧山ノ勢ハ退散セシ
掌_レ指カ如クナラント言紀伊守モモ可_レ然トテ

此于秀吉之取中上之秀吉被聞名在八
也之於下之工尾軍法ノ一大支夕ラニ同クハ之ヲ
卜師之也其池田達之某之被作付可シト率
更ノ佛ハ仕マシト再ニ中ニ依テ惣志ヲ三意ニ
可但卜テ師軍法以評議多ク別ルニ通リ被
作付于時重テ勝入言上シケルハ此度ノ師人救
皆私ノ私私中ニテ若他ニテノ軍法作付ル
卜中ニ仍る也之卜テ秀政ヲ以派成夕レ由

大將ニハ三好孫七守政次卜テ勢凡一乃場全
秀政之勢子也池田信入同紀守同ニ元守尉
輝政森茂亮守長可也守大將子ニテ都合
之勢三乃守騎四月八日夜中ニ急列岡崎城
卜進ニケル先年ハ信入ニ安ニ成亮守三安秀政ニ
深更ニ岩崎城ニハ亦向和ニ丹羽次守助知公兼而
家康公ノ師之ヲ守リ此時城中ニ鉄砲ヲ亦
掛テ猛勢ニ佛ノ足ハ鉄砲ノ音ニ見卜鐘ト用ニ

款押ル更ニ家康公ニ告知ラセ奉ラニ為渡守ハ
政勇ヲ頻ニ忠死才ヘキトテ害ヲ殺トキ下防殺ス
池田カ勢ヲ初トシ城ヲ取テ只一戦ト攻掛ケルカ
城中ノ勢ハワツカニ三百余人ナレモ急テ死ラ定名
救一足モ不退終ニ勢中ニ籠ラレテ討死ス人々
先ニ一人ハ家康公ニ任進ニ奉リ合戦ヲ遙ケル
去程ニ款ハ八ヶ条ノ首討死門カラヨシト云ヒテ
其夜ハ公藤原桐井村ニ陣取九日曉天ニ松河ヲ渡シ

志疑見ノ渡ニ丈人救取川ヲ三年ニ合テテ所ニテ
渡ニ来ヲサシテ進メケル

白山村合戦之變

去程ニ家康公曰比款ハ救多ケル其時合戦ス
ヘシト思召ケルニ案ニ合ニ謀ノ中ニ落タリト思
有テ水野物惣兵衛忠次同僚十府孫成村原
或ハ去程ノ康ニ重大須賀五郎左衛門尉康高奉多
豊後守康重周郭孫次郎長盛丹羽功外我次

等款ノ跡ヲシタヒ行合次才一我夜へシ下江作舟
之丹羽初め信雄孫ノ家人之故此道以物ノ案
内トシテ拘跡ラレ都合ヲ惣力三千音清ヨリ四月
八日ノ夜半斗ニ小牧亦立指葉村ヲ指テ進ケル
去裡ノ翌九日東雲ニ指葉村ノ上白山林此所ニテ
秀次ノ軍勢駒ヲ留メ暫ク茶桑苗圃ヲ開キ
居ルニ江ノ兵糧付タル荷馬引掛ル所ニ掛原
小平太水野惣兵衛大次郎五郎左衛尉等ハ先立

進ニ未タ曙ノ天ニ雲カ翹カト杉林ノ間々千ヲト
見ユケシハ秀次ノ軍勢見テ見テラレハイカニト云
裡トワシケレハ軍間近ク来リケルニ敵勢ト復ニモ
知ラズ以ノ舟ノ勢モケルコトナシ走シ備ラズ也
秋砲ヨリニ槍マトテ天化ヲ返ス如ク夜初セリ
于時大は度々槍ノ耐手ノ足裡以テ久世ニ四席
坂ノ下ノ所見物支等ニ首延斗ノ銃砲ヲ各
足裡下知ニシタカイ尤右ニ命ケルニ成リ右志

三子才ト質見物事等左右蘇波リトテ鉄砲
兩ノ如クニ打掛ケル敵モ備リテ速ニ害ヲ成取
防戦トイヒ尼不思掛ノ軍十レ兵救多討レ既
敗軍ニ及レ所ニ味方ノ勢ハ泣ヨリ追取テ跡々
多勢ニ成ケル仍而或志討レ亦落行ク忽トシ
テ軍破レケル秀次ハ馬ヲ紫ハナシ如何セシト前
後ヲ見廻シテ括ラレ所ニ可覓セテ敵ト云志馬上ニ
テ亦才ケルヲ秀次ノ白ク女死セテ信セヨト此中

ケルヲ女抱答テ云是ハ雨天ノ傘口相ノ只今テ
引込シ指貫ヲ仕ル条中々沙月從ト言テ推テ
ホテ返スモ後亦下ニ由カ馬ヲ參セテ秀
次ハ落シ棄ルモ身ハ奇ク成テ指貫ヲ指テ此
ニ至テ物ヲ去テ痛ク佛ク敵大分切リテ後
討死ス首ニ建文ノ乱ニ示山田太郎高厚ハ我員
公ニ備セヨリテ月ハ奇行成テ討死スト言ヘリ余
の亦トモ天晴シ我知ナルガ去程トフニ止マリテ

討死スルモ落込モ有示的成テ討シ者救知
寸打無首救七八百及ケレ味方無示り其
以強ク強クイタテシノ如ク追カケテ武將一
數軍足リ制シケルハ如斯ノ勢ニ長進ハ其月
ト駒ヲ横夕上懐ヲ横夕ニ武將多クカラシテ
留メントスレ厄詔ヨリ友ニ進ニテ押掛ケレハ中々
カヨクス跡ニ追テ船場秀次ハ秀政ノ隙ヨリ
亦丁汁リ先達テ供テ船船滿ニテ焚燒ノ音アリ

不審ヨ思フ船ヒシト静カナリ跡合進不行ト
船田中久兵衛等海軍少将ト此人是海軍ニ地
来ル云船合戦ヨリ人救テ返セト云秀政足下ハナセハ
来リ也使当ハイカト云兵先手且往進ト云推テ
御通ノ秀政云ケルハ久兵衛ニ進テラサレテ如新ト
賞ニ臨ハ敗軍矩ナシ備ヲ立真ニ相待和聖神奈
水野大源等秀次ヲ追来テ秀政カ備上掛入タレ
味方モ以御夕ニ度ナレハ度ヲ我度ト執トイハ

臣味方ハ小勢ニテ殊ニイタキテ歌ハ新キモ多ク
其上大勢ヲ利不臣ニ察テ掛レハ或ハ討死或志
手負テ防アクニ見守ニテ路行志モ多カリケレ
其意成カカ乃手或志山ノ下送ラ人知レス居ルモ
リ排系大軍勢ハ上野大森松子石カ近敗北サ
亦勢田ニ廻リ路行候モ首ヨリ中傳ル如ク長
退ス物テ甲ノ緒メヨト良將ノ教ノ今更思合リ
右ノ通リ秀次ノ軍敗北セシハ田中久兵衛カ不覺

故ニ是ヲイカニ云レモ秀次合戦ノ半ニ先陣ヲ返セヤ
新ト先陣知ラセヨ夜母名ノ者ハ有カト申サレ
ケルニ近習ニ使ヌ一人正不有合誰モ之内モ余ト
申シテキル右松参ルヘシト秀政方ハ歩出久所
モ此ト知スル大將ハ不有合仍テ秀次ノ軍忽
崩レケル此大將ハ北山ノ掛ノ濃州ノ路行ニケル
仍ラ今ニ好命ニ
長久手ノ所ニ陳之夏

伊先子三伊井兵少補是政之被 作自内多四
元正成高本主此西將之武者奉行下之
此外水師者千部後之号以泉和守下鳥居處之
成瀬小名海也半是以下合之勢三千騎四月八日
夜半斗小牧之伊也馬信確之之近習之士十騎
雜兵合之勢五百金騎之同進之五之小牧之留之
居之酒井在處尉石川伯耆守同七門守中多平八郎
等之信確之之勢之加也指至之伊道之如之如意之村

伊勢之勝門之至之玉之此時川之各之問セ玉之勝川中
軍之首途之八士者是之川之各之卜以祝之有之伊湍湊
之禰名上伊禮之伊是月之是之濃吉村之伊勢之
小幡之城之入玉之此時之伊吉列之伊伊勢之伊
之七出所之作之伊用之勝川之伊其是禰名之仍之
其所ノ山ヲ甲山ト里人中者小幡ノ城ニテモ伊小幡有
テ合戦ノ様子ヲ以て居之伊何人ニモ是之伊致之是之
稽子石原之伊掛之此所取之山陰之伊夜亦之伊

明ニケリ裡ナク長又手近カ至セ玉ヲ害ニテ秀次ノ敗
 北ヲ被聞召丈分岩寄村ノ北井竜ケ根山ニ上リ
 欲陳ノ群ヲ御覽茲北宿ニツノ石有此時西君御
 腰ヲ掛サセ玉ヲ仍テ丈分ニテ里人此ヲ御麻札石ト
 申ス今安周守ノ扣ト成ル金ノ七本貴ノ二銅子也御
 驗ニサセラレケレ旭ニ輝キタルニ依テ一竜ケ根山ヲ丈ヨリ
 花金山トヤクノ井竜ト云々昔井ノ井ノ竜カ
天上シケルニ仍テ
 長又手合戦附リ胎入父子

武藏守討死之夏

去禮ニ家康公ハ井竜ケ根山ニ上リ御見合アリテ
 後富士ケ根ノ細谷邊御佛ケ根山ニ御籠ヲウツシ
 玉ヲ金ノ以馬中ヲ五サセ玉ヲ仍テ二度目ノ合戦退
 ニセシ柳原小平左其外兵に是ヲ見シヨリカラ得
 我先ニテ馳集リケルニ仍テ御見合ノ人救召時
 増リケル款方ハ是ヲ見ルニ以テ終ニ合リ此
 田父子ハ佛ケ根ノ森ノ山ニ御籠中ニ向テ備フ

其間廿百斗池よりへ夕の武蔵守、伊井直政の備、
南ノ山、向う初子一同、錦波上ヶ直政下知、二三番地、
鉄炮、雨ノ如ク赤セケル、鉄炮ヲ赤シケト下知
シテ向フケルカ備カク、ラズ、的ニ成テ討テラ、之救ヲ
知シス、歎ハ惣、惣三子ニ命テ大勢ナレ、内者、心、
大父保、此、花、の、海、也、半、花、を、水、主、水、等、海、の、其、本、
ヨリ、鉄炮ヲ下知シテ、赤、多、守、空、矣、更、之、ナク、仍、テ
討ル、志、救、不、知、于、時、今、村、兵、卒、兵、卒、懐、テ、人、口、セ、高、名、ス

小栗又、市ハ、度、ノ、後、予、合、款、云、人、實、依、ル、大、是、侍、藏、
同、文、義、是、也、高、名、ス、如、武、赤、物、ノ、務、員、ニ、成、テ、予、
火、花、ヲ、賣、シ、テ、戦、フ、也、家、康、云、より、海、下、知、有、也、
加、着、者、也、海、邊、矣、也、市、施、孫、兵、卒、大、水、主、水、
夕、門、建、屋、布、内、者、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、也、
衛、等、ハ、所、々、之、也、皆、高、名、ス、此、長、池、田、カ、備、ト、成、カ、備、
ト、間、二、丁、余、リ、ヘ、夕、ノ、西、備、ニ、成、テ、入、乱、レ、戦、時、天、野、
三、所、兵、卒、討、テ、追、習、ニ、有、テ、良、等、ヲ、引、率、防、衛、

中より先年之池也加り合戦し高名サセ真身八里
母夜我忘り実落し彼ノ敵良等六ト王從三
馬三ノ實也下人等ノ前ヲ討セケル知所小人ノ宗
物ト云志此所ノ来リ彼ノ敵カ脇指ヲ折合スルニ
仍テ与ケル糸津流官治ノ尉度々ノ高名アリ
池田ト森カ備防致ト十五兵士卒討死十分十ヲ
石叶トヤ思ヒケレ或志討し或落行既敗軍ニ及
今ハ或志カ先ノ進シ士卒ト下知ラスル知ノ負者

使炮ヲ歩貫し若高茂急守モ声モナキソリカエリ
終ニハ方無ク成リケル仍之或志守ノ良等五千騎
カタツラテ相戦ハ是ニ引守皆討死シケル此等皆或志
守カ親カ之仍之或志守ノ良等皆退散ストイテ
田加兵衆擁浦兵七ノ桐与テ竹村ノ卒モ是等ハ
良等相佐シ池田傷入ル手ニ池也加ノ金銀ト上戦
終ニ四人死ニ討死ス去程ハ味方ノ勢カハ夫カ池田カ備
尤ノ脇ト押迫シ切テ御ル池田父子ハ身ヲモイト寸

声ヲカラシテ士卒ヲ進メシ尾味方七勢ヲテ檀間
ヨリ切テ御ル仍ラ池田カ勢防キカ子ニテ丈八之崩レ
ケレハ勝入ハ遠クヒツ氣テ先ニ向ヒケル所ニ安否
其兵未尉カケ向テ終ニ勝入ヲ宴伏セタリ永井
傳八布前ヨリ取其後表兵未里母衣ノ武者有リ宴
之落シ高名ス如新ト將分討取ナレハ今ハコソトマ
思ヒケレ勝入カ手勢士宴カレコト掛廻リ命限ト
佛ケルカ紀伊守ハ以前ニ延行ケレ氏父ノ勝入討

死由ヲ聞テ氣ヲ返シ今ハ何ヲカ致すヘキトテ才ヲモ
イトワス策燈ヲ人宴カ大勢ノ掛入十文字切テ廻リ
是ニ終ニ討死ニテケリ味方ハ勝ニリ松又追行
所ニ宴康公御下知テト上ノ貝ヲ説キ工重カ
ケレハ惣ハ勢皆御以獲ルトイケレ謂所宴康
公ハ勝テ甲ノ緒ノ玉ヒ小幡ノ城エ下引カセ玉フ云程
赤坂ノ首級ヲ記サセ玉フニ凡一万余ト聞エテ
ル古今ニ無双ノ軍ニ志ト皆人足リ感セテ

云々支ナシ

秀吉公長久手に伊お馬三交

去程に伊り九ヶ午に利三秀次敗死し旨及位近則秀吉公福原名比留々々に出法清將公其城より賢國に守シメキ外ハ務ノ甲ク歩出へ下法隆中相籠金ノ就單ノ御馬渡ヲ指テ一交二番三交ノ貞ニ示シ十六午ノ大軍ヲ引率シ樂田ノ中陣ヲ歩立長久手トトリ急キ玉ヲ交ニ参列ノ御惣小牧公

守リケル人々ハ酒井登の尉石川伯耆守同日向守本多平八郎等之此一回忠畧セシケルハ中ニ毛中平八郎ハ秀吉公合戦ニ及玉ハ其時秀吉公ノ籙中ハ實テ入陣ノ及ニ程ハ陣入キ秀吉公ニ守間ヲ取セ其間ニ家康公ヲ交ニ引取セ其時ト謀テ平八郎ハ組元ト立百餘ノ小將ナレバ大軍ヲ不忠ヒテヨシ公ノ籙中ヲハ横脇見テ五丁七丁ヲ隔リアレライケレバ秀吉公ハ是ニ参合玉ヲ交泉原守

其夜八幡陳ス度、小牧ノ御留守ニ酒井元也尉謀
畧ニハ秀吉ノ御陳樂田ノ留ニ居其ク、秀吉ノ留ニ
テ幸ニ押寄テ留主居ク、追敷ニ放矢寸ヘシト石川
伯耆守方ニ使去以テ、其ニ有ク、自ラ内談寸ニ元伯
耆守同心ナシ、仍之尤也尉一手計ニテハ小幡五云
ナシク小牧山上一所ニ成ケル日向守ニ平八亦ト同シク
御籠中ニ可余之由ナトイハ元伯耆守ハ是ヲ判シ
ケルニ仍テ小牧ニ留リ御留之ヲ堅固ニ相守ケル

伯耆守ハ内ニ秀吉否云々志ヲ通シケル也、之果ニテ
明年ハ秀吉云々遊ニケル去ニ御テ秀吉否云々電泉
寺表馳リ着玉五ハ本村ニ集人、堀尾後ハ一柳希ハ
等ヲカ回ク、教泉寺ノ坂ヲ下リサマニ見マリ、如良
合戦ハ夏ニ多ク、康云信確々惣勝小幡、入カト
云フ所テ秀吉否云々、秀吉否云々、電泉寺ニテ合戦ハ
始終ヲ興ニ開テ急テ、斗略相遠ニ別、此田無武
節守テハ、士卒一万余ノ討死ヲ、中ノ名所ノ氣在

甚夕不可免千万悔と五丁甲斐リトキ家康云ハ
此根子ヲ咄五已敵ハ得ナル大軍之令一夜ニ城ニ攻
コトノ用意成ヘシトテ孰承チテ物心ヲ見シテ中夕
平八郎ヲ免出サレケル平八郎ハ独抱百挺斗リ持セ
谷間ニテ根子ヲ窺ヒ居ル但モ秀吉ハ物見ノ為ニ
三十騎斗リ並水邊ノ雜人故々四五人斗リ
居ケルカ平八郎組ハ亦騎相見シ同人組内永井
与次郎ハ公諸馬ニテ馬ハ乞リ行跡ヲ平八郎示ル得テ

鉄ノ石ツギヲ彼ノ馬ノ手組突カラセ馬ヲ留メ別合處亦
ヲ察ラシムカレル程ニ敵ノ兵足馳々来リケレ平八郎志
兼テ能ク抑所ヲ見以テ此抱リ立至ケレハ此夕々
カタトト快抱ヲ少拂ヒ仍テ敵ニ我ニ及リ内藤
弥次郎同族市井組流木清余ノ是騎来テ防
戦ノ敵ノ兵進行如ク去一立テ初トシテ敵ニ騎
切之居シ活世為ニテノ首ヲ持セ家康云ハ此ト
告ケルリ家康云ハ此城ニテ大軍ヲ引退ナク

味方利ヲ失フヘシ信確ハ所同心ニテ良別小幡取
ラ立セ玉ク信確邪モ御周道ニテ比良村ハ妙明カ
未ノ刻ニ小牧ハ省御ノ初トハ秀右公ハ家ニモ知リ
玉ク明拍小幡ノ城ヲ二年ニ重ニ丸巻ニ良時コフニ
落ヘシト計畧ヲ定メ秀右公直ヲ招ハアノ小牧ニ
家康カ入ル莫ク堂以テ夫ノアトフル莫成ヘシト
勇テ出陣ノ用意有所ニ物見ノ士帰リニ中招ハ
家康信確居ニ先別小牧ハ入セ玉ク由リケレハ

秀右公横手ヲホテ直ニ六十三ニテ七ニテモ手ニ
合ヌ家康哉ト感以テ武道妙智ノ良將ニト
同ナリサキ以テ事ナツキ大ニ感シ玉ク誓有テ
諸將ニ直ニ此所ニ在陣今ハ益ナシトテ以テ
丸山城ハ引退キ玉ク羽目樂田ノ本陣ハ金吾ヲ
家康公ノ計略ヲ感シ所々ノ要害固ク被作付
卯月十ヨリ羽黒ノ古城ヲシツラヒ城尾後助
山内祐忠ハ伊東掃部亮ホラ入至シ小牧山ニ對テ

城ヲ十日ノ所則城ヲ入シ莫ク保月等ヲ記シ
同ノ十八日迄ニ法事ニ安シ害出来ニ家康云信確
弭二月廿日清須ノ入街ノ

長久手合戦高君之世見

永井善長馬 武藏守家来母衣志ヲ討死

權田小三郎 母衣武者討死

井伊兵衛少輔 後入手ノ母衣志討死

笈 女去夫 大須賀手ニテ初ノ合戦ニ佛首

本多八藏 武藏守首ヲ死テ免フ

大原新十郎 母衣アリ

水野原十郎 大惣兵衛手ニ在テ繼テ合高名

成瀬小吉 高名首ニテ討トル

青山又六郎 本下部ト由テ討死

今村九兵衛 武藏守家来討トル

川久保新十郎 後入手ノ母衣志ヲ討死

蜂左七兵衛 右田氏ノ

渡多(半)蔵 顔文字実居此外多し

鳥居金次郎 武蔵守手ノ仙田ニ味ヲ討トル

平松金次郎 口ノ家ノ山田ニ在ルヲ討トル

松平物之部 金平(寛) 平十郎 徳戸(寛) 松

成胤新命 徳戸又十郎 大徳寺ノ外 徳殿兵庫

寛 平(以) 渡多(寛) 六(鳥) 徳和(徳) 外 此人ノ塔高名

安着(寛) 兵米(徳) 徳(入) 首(ノ) 高(名) 高(名) ス

小牧直高 亦八(方) 徳(麻) 三(百) 八(間) 南(北) 二(百)

四十八間 本城 東ニテ 南北十二間 半西ニテ 南北十九

間 四尺南ニテ 東西ニテ 三(百) 半 西ニテ 十九(百) 尺 有リ 大

手口南ニ有リ 組禁(布) 有リ 本城ニテ 道ニ 廻リ 有リ

東ノ口ニ 八(馬) 出シ 有リ 今ノ 李(津) 川(筋) 有リ

本城 西ノ方 曲輪 巾 十六(間) 長サ 三十三(間) 南西ノ

間 山(中) ノ 分(井) 有リ 芝(車) 井(ノ) 有リ 又 曲輪 略シ

一 山ノ 北西 背(八) 沼(ノ) 由 今ノ 八(田) 之 山ノ 南東 八(野) 今ノ 富

一 古(八) 小(牧) 山ノ 村ノ 北(ノ) 由

一 嶺清水ハ小牧山分九丁己ニ方ニアタリ世迄其ノ北ニ
東西半六方南北六十一間ノ屋敷ノ形アリ北ニ
坊ノ首横巾九尺アリ高サ七尺垣上テ其居アリ
東西ニ七土居形アリ東ハ今テ小牧村ノ町裏ナル所
若クテ小牧ヨリサ八丁奈辰ノ方若東西七方南
北廿間四方ノ土居形サ若ノ東西古野今ハ白田ナリ
此ノ方古ハ沼今ハ田ノ南ノニカハ古ヨリ田ナリ
小幡ノ城平比テ東西二十七間南北廿八間北ノ方

カケナリ高サ九間東西三重ホリ小幡村ノ城ノ
南モ有城ノ北前ハ沼地今ハ田ノ

尾州安知郡長久手合致平

秀吉公富田ノ城攻メ之支

天正十二年甲申五月廿日勢利安濃津富田信
儀守ノ居城ヲ秀吉公ヨリ大勢ヲシテ先強ク
攻メテ北城ニハ加賀卿并赤松ノ頭トシテ千竹
三弟等ノ濱田公長等ノ小衆甚ク仲小坂弥九郎
林与五郎一同十餘桶十郎都合々勢カニテ
奈々着城之勢ニシテ公手ハ大勢カニテ四方ニ重之
重之柵ヲ付廻シテ夜夜雨ノ如クニ赤掛キヒシシ

攻ラニ城中ヨリ防戦トイハレ城中ハ不叶ト思ヒ
城ヲ桐可渡ストテ和スレトスレモ秀吉公スレモ仍之
五月晦キ夜紛シ城内早出テ門ヲ閉キ見レ公音手
ハヤリフルニテ作り城門ニカキテ夕暮各出トスレモ
不叶所ニ柵新敷キ出テ先ニ進ニ実テ御ウ共
柵退キレ此内退ラクニテ討死スル者百余人其
中ニ千竹三弟等ノ林全衆加藤太初等ノ等ヲ頭ト
シテ皆討死ス桶十郎林松千代是ハ重者也

此二人ハイケトラレ首ヲ切レケル

竹ヶ鼻城攻之夏

同五月十日不破源太郎居城濃州竹ヶ鼻ヲ押寄
セント秀吉十万余ノ衆ヲ以テキヒシク攻テ五ヶケレ
要害固ケルハ落救セシ夏不能仍之城ノ四方ニ
堤ヲツカセ真巾十也間上ニテ廣サ六間之堤ニ首月
漸如來シテ則才雷川ヲ分テ流シ入ケレハ無
裡氷ニ可家枯レ早氷三尺余ヲモタエケレハ

崩或モ斃ナド集リケレハ女童甚タ及難飯ニ死
死セントスル者モ多カリケル去程彼ノ源太郎
今ハコウト見エケルハ秀吉公ニ降ラ乞ヒ奉リ
依テ勅助命被作付要害ノ手當等ヲ請
夏被作付夫ヨリ秀吉公ハ多藝表トテ出馬
直兵村ニモ塔ノ要害即シウラヒ首テ丸毛三好兵
衛入至シ其邊ノ仕置等ヲ作付ケル其後秀吉
公ハ六月十三日伊豫の陣ノ以用意作付ラシ馬出

馬ニテ同月十六日摂州大坂^トコ^リ夕^タモ^リナリ

蟹江之城^ノ落^ク去^リ之^ノ夏

安^ノ滝川左近将監一益ハ去年迄ハ北伊勢五
郡ヲ領シ長嶋ノ城主ニ然ル所柴田修理亮勝
家滅亡以後ハ遊客ノ身ト成テ江州南郡ニ
於テ五千石ヲ領シ然ル長嶋ノ城ニハ信確師ヲ
セシメ秀吉ト不和ニ成テ勢州才造ノ城ニ秀
吉トヨリ番手トシテ富田左近滝左近兩人ヲ

置シ此滝川討略ヲ迫シケル蟹江ノ城亦前田ヲ
一味ニ引奇ケルハ参州尾州ノ兩将ヲ令騷其行依
テ達自稱^リ則前田一方ニ申通シケル此節秀
吉ト忠義ヲ致サレケル必ス恩賜ノ地可有^ル蟹
謀ケルニ仍テ与十郎同心シ六月十六日夜渡海シ
テ蟹城スニト約ヲ定メケル安^ノ九鬼右馬亮
ト云フ志彼ニモ蟹城ヲ通シ合^テ西勢救^テ十艘ヲ
船^ニ取^リ棄^テ出^シ舟^ニ滝川カ勢ハ蟹江ニ入^リ滝川モ

城に入テソコ見廻ル如ク如何成者ニヤルケ近カノ
酒屋に入テ放火スル程時ノ間三十家斗リ焼ケル
此後家康公ハ清須ニツラツケルカ右ノ奇徑進ニ依テ
良時也勢ヲ指テ向テ仍之ハ勢カノ面ニ策進ヲ合テ
裡ナク解兵ノ城ニ馳行如ク未タ敵勢過半モ船中ニ
見テケル如ク海手ニ向テ弓鉄炮ヲト知シテ一同ニ
放テ掛ル奇手ハ追々ニ馳来テ城ヲ丸巻ク柵樓
ヲ上城中ヲ目下ニ見テ弓鉄炮ヲ透間ナク放チ

攻ケルニ仍テ城中クモ是ラ我度ト防戦トイハ尾丈
勢ニテ四方ヨリ丸巻ク利不長ニ攻掛ケルハ城
中ノ兵玉葉矢多子モ受テ果ケレハ滝川降ヲ乞
ケルニ仍テ別信確々ハ沙碁ヲ前田殺生口ニ
滝川ハ誓紙ヲ以テ你ニ助命付ラレ滝川夫ヨリ
勢列ヲ遣ノ城ニ行城番富田左近ト一所ニ成度
旨申トイハ左近云フ様解兵ノ城ヲ扱ニテキ
タリ玉ヲ変心庭不効之仍テ此城ハ入申ニ度

難トテ奇自サ六中途ニ逢テセニ方ナク夫ガ
紙前ノ五令下云フ知テ果ント云フ此合戦蹟頂
工甲少知シタル夏ハ山口長三所ト云者輝江菟
椒ノ根子ヲ知り第テ家康公ハ往道致ニ仍テ之
其長史ノ手清原工見エケルハ仍テ家康公ニモ
早ク解任ハ出馬アリ仍之早ク之洛城ナリ
同六月家康公ハ惣州ニテ所々ハ防キ首テ
白子神戸色放火シ五ヒテ渡田ノ城陥ル迄也
夫ヨリ清原ト入ケ同シク七月ハ尾州ニ據ル
城陥ル迄アリ

秀吉公信確々以和隆之夏

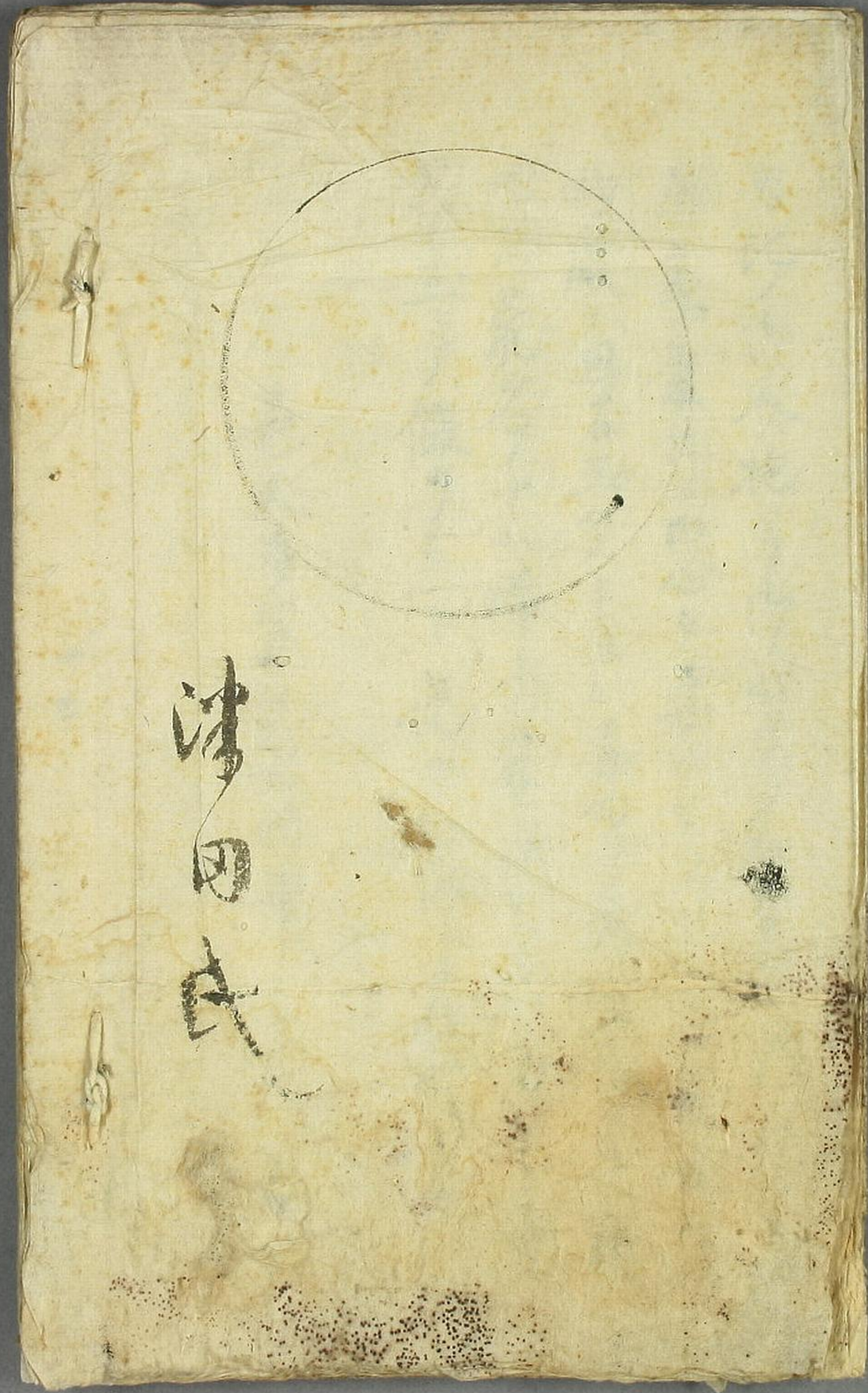
天正十二年甲申八月下旬秀吉公大坂ヲ立十
万衆ノ勢カリ引率テ尾州上奈良村ニ着陣也
依之 家康公信確々モ小牧ノ城陥ル出
陣ニ秀吉公ハ着陣ノ翌日ヨリ上奈良村河田
村大野村此ニテ所々砦ノ要害ヲ作自ラシ

九月下旬、出来たり、別右ノ岩々ニ番替入至シ
兵糧五薬、江山ニ用意シテ、夫ヨリ十月、日丈坂
ニモ人教ヲおサレ、秀吉公ハ、勢利ニ趣キ、五七直ウ
ノ城ヲ、拵備生志ニ、所、蜂ハ、髪、素、丸、魚、ヲ、城、主
トシテ、居ラ、カ、ル、然、ル、信、雄、ハ、此、節、中、ノ、ハ、ニ
、沙、對、陳、有、子、浪、田、ノ、城、ヲ、羽、柴、下、徳、守、若、城、之
、同、且、素、名、城、ハ、家、康、公、所、在、陳、之、然、ル、所、ニ、
、是、立、法、庵、ヲ、耐、進、之、物、ヲ、以、和、儀、ノ、交、ヲ、以、結、ヒ、ケ、ル

所、信、雄、ハ、家、康、公、以、此、節、モ、ナ、ク、此、同、心、ニ、テ、秀
、若、公、ト、信、雄、ハ、十、月、亦、ウ、矢、田、河、ト、申、和、ヲ、以、對
、一、面、赤、之、疎、略、ノ、多、石、可、首、ト、被、作、合、ケ、ル、ヲ、夫、ヨリ
、秀、吉、公、ハ、京、都、工、所、登、リ、人、仍、之、尾、別、表、ノ、所、ニ、
、其、出、ノ、形、勢、亦、城、尾、為、外、一、柳、ニ、市、於、亦、合、引、宿
、可、請、其、之、旨、以、作、村、ケ、ル、ト、ウ、右、所、ノ、和、睦、ノ、交、信
、確、々、ヨリ、家、康、公、以、此、節、後、定、之、仍、于、家、康
、公、ニ、其、之、以、沙、不、使、之、由、ト、云、信、雄、ハ、家、康、公

目比ノ御女抱ニテ御心方ノ如志ニ海ニ仍テ走
加家康公ノ心ヲ安クセラレシメ信確ニ
我威ヲ思召玉ケスト云云亦曰ク秀吉ニサレ大將
ナレハ荒テテ十八日帰テ家康公ノ御為ニ不安
思ヒ玉ヒテ假リモ下先以知彼ト云悦有ケル

長久寺軍記大略畢



津田氏